

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はご利用者様がその人らしくいきいきと生活できるようにという内容で職員は常に基本理念を意識しサービスを提供している。理念を玄関、事務室、職員トイレ内などに掲示しており常に目に入るようにしてある。	開設時にホーム独自の理念を作成し、玄関や職員用トイレ、事務室など事業所内の目に付く所に掲示をする他、忘年会時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。また、理念が実践できるようにユニット目標も職員と一緒に検討し、個人目標にも落とし込んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地元のスーパーを利用し米、牛乳、味噌は地域の方から購入し日常的に交流している。また、地元の小学校やボランティアと定期的に交流が図れている。	事業所の前にある小学校の運動会に見学に出かけたり、文化祭にはご利用者の作品も出展しました。小学生がホームに来てくれてふれあいの機会を持つたり、ボランティアにも定期的に来て頂くなど、地域との交流を行っています。	ご利用者と一緒に町内行事も参加する機会を検討し、これまで以上に地域との交流が図られることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とお会いした際はあいさつを交わしている。今後、ホームの行事などに参加して頂けるようホーム側から地域の方へ積極的に関わっていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的実施しておりご利用者様の現状、サービスへの取り組み状況などをホームから報告し参加者から意見を頂きサービス向上に活かしている。	地域住民や市の担当者、他法人の理事長や特別養護老人ホーム施設長、小学校の教頭先生やご家族に参加していただき、運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望をもとにサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市の担当者に運営推進会議録を提出したり入居者の状況報告や担当者との連絡調整を行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただき、事業所の状況の報告を行うなどして、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりが自由に行動できるよう玄関の施錠は夜間のみとしている。身体拘束に関する内部研修を実施し職員全員が正しく理解し身体拘束をしないケアに努めたい。	ホームとして身体拘束は行わない方針のもと、玄関の施錠についても夜間のみとしており、日頃の職員の言葉遣いについても管理者が指導を行う等、拘束しないケアが徹底されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い全職員が理解し業務にあっている。日々の業務でも管理者、職員同士で声を掛け合い虐待防止に努めている。	ホームでも虐待防止に関する研修の機会を設けたり、日常の中で声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、検討するようにされています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行われていない。今後、内部研修や外部研修等、学ぶ機会を設け権利擁護に関する理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様に分かりやすい説明を心がけている。不安や疑問点等あれば十分な説明を行い理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会や2ヶ月に1度の運営推進会議などの機会にご家族様から意見や要望を確認しており可能な限り意向に沿えるように努めている。	日々の面会時、2ヶ月に1度の運営推進会議、半年に1度のサービス担当者会議や年に1度の家族の集いなどの機会に、ご家族からの意見や要望を確認し、サービスの質の向上に繋げられるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議やリーダー会議を行い職員の意見交換を行なっている。また、管理者との個人面談を行っており職員一人ひとりの意見や提案を運営に反映させている。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、半年に1度は職員との個人面談の機会も設け、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人が取得している資格などを給与に反映させ個人に合わせた就業形態などやりがいのもてる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や実績に基づき適切な研修に参加できるよう機会を確保している。全職員を施設内外の研修に積極的に参加させることでスキルアップを図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流の機会は設けられていない。今後、職員の交換研修などを行いサービスの質向上に努めたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員がご本人と関わる時間を多く作り不安等の訴えに耳を傾けている。また、訴えがなくても表情や仕草から何を求めているのかを探り安心して過ごして頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に不安や困った事をお聞きしている。また面会時にも御家族様が話しやすい雰囲気作りに努めている。不安や要望などに耳を傾け共感し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在に至った経緯などをご本人、ご家族からお聞きしご本人の状態を把握している。その上でケアマネージャーと相談し今一番良いケア、サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でお一人おひとりの得意な事を見つけ継続していけるよう支援している。また、人生の先輩として尊敬し学ばせて頂く姿勢を忘れないようにしており、お礼の言葉を伝え支え合う関係作りに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で日々のご様子を伝えている。また、面会時にはゆっくりお話が出来る場を設け職員も加わり日頃のご様子をお伝えする等ご家族と一緒に支援して行く関係を築いている。	事業所広報を年に4回作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、半年に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人・ご家族様からお話を聞き、慣れ親しんだ場所へドライブや外出などを計画・実行している。ご家族だけでなく友人、知人等の面会もみられる。	親族、友人に面会に来て頂いたり、ご家族の協力を得て自宅への外泊やなじみの床屋も利用するなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格・その日の状態を把握し、気の合う方と一緒に過ごせるようお手伝いしている。又、交流が難しい方には職員が共に過ごす時間を設け、お一人にならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要な際は、ご本人及びご家族様の相談を受け支援を行っている。現段階では相談されてはいたないが、今後あれば出来る限りの対応をしたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やコミュニケーションを大事にしてお言葉だけでなく表情や仕草等から思いや意向をくみ取るように努めている。また、困難な際はご家族様からの意見も取り入れている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話から得た情報、カンファレンスやご家族来所時にお聞きした情報を記録に残し全職員で把握している。入居後もご本人、ご家族から新しい情報を集め記録に残し全職員で把握に努めている。	暮らしの情報シートを活用し、契約時にご家族にも生まれてからの環境やよく行った場所等を記入してもらい、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。	日々のご利用者とのやりとりの中で確認した新たな情報についても定期的に更新するようにされることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず記録を読み、お一人おひとりの過ごされた様子・心身状態の確認・新しい情報などの確認を行っている。又、職員間の口頭での申し送りも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる際のカンファレンスには出来る限りご家族に参加して頂き現状をお伝えし意向を伺っている。ご本人の思いも普段の会話の中から引き出しその人らしい生活が送れるよう計画書に反映させている。	介護計画の実施状況を日々の生活記録にも記入するほか、居室担当者の毎月のモニタリングにより介護計画の達成状況を確認しています。また、半年に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、介護計画に関する意見や要望を伺うようにし、介護計画に反映させるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスの実施状況を毎日常生活記録に記入している。又、ご本人の言葉や職員の気付き・今後の対応についての考えも記入している。月末にモニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族様にお願いしているが、急変時やご家族様の都合がつかない時はホームで代行している。又、理美容やリネンに関しても、ご家族様が対応出来ない時はホームで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方や小学校の生徒が授業の一環として来所し、歌や踊りを披露して下さり交流の機会が作れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診して頂いている。又、必要に応じ、ご本人の様子や相談事などを手紙にしたり、場合によっては職員も同行して普段の様子を伝え、その都度適切な指示等を頂いている。	ご家族の受診支援を基本とし、ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医にて受診してもらい、必要時には事業所からもご利用者の状態を文書にまとめ、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、緊急で受診が必要な場合は職員が受診支援を行ったり、医師とのやりとりを直接行いたい時は職員が同行する等の支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が出勤しておりその都度口頭で相談を行っている。また、チェック表に看護師確認欄があり、介護職員との連絡に活用している。年間を通じて看護師から内部研修を行ってもらい業務に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、管理者が出向いたり連絡を取り現状を伝えている。又、入院中も病院関係者と連絡を取り、現状の把握に努め、医師・ご家族様と今後の相談をしながら、早期退院に向けて連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームで出来るケアについて説明している。心身の状態に変化が見られた時は、ご家族様・かかりつけ医に相談を行い、必要なサービスを受けられるよう連携をとっている。重度化・終末期についても出来るだけご家族の希望に添えられるよう話し合っている。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し同意を得ており、ご利用者の状態を見ながら必要時には話し合いの機会も設け、ホームとしてできる支援を行っています。	ホームとしての重度化した際の対応の指針を作成し、契約時にご家族により分かりやすい状況にされることを期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による内部研修を行い、急変や事故発生時の対応に備えている。又、AEDを設置し、救急隊による研修も行っている。	事業所でも急変時マニュアルを用意し、救急法やAEDの使用研修なども行い、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回(日中、夜間、地震想定)避難訓練を実施している。防災マニュアル・連絡網を作成しており、災害時用の非常食品や水の確保も出来ている。現在地域の方からは参加して頂けていない為今後協力を求めていく。	事業所では年に3回、日中・夜間の火災や地震を想定した避難訓練を行っており、災害時を想定した非常用の食品も確保されていましたが、前年同様地域の方の参加はありませんでした。	避難訓練には地域の方へも参加をお願いし、災害時に適切に避難できる体制を整えられることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けや言葉遣いをする事で、プライバシーや尊厳を損なわないようにしている。又、職員同士お互いに注意しあい、意識する様にしている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、事業所広報への写真の掲載についても確認がとられています。また、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や自己決定を尊重するよう声掛けを工夫している。また、会話だけでなく仕草・表現などからも思いをくみ取り、出来る限り要望に応えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課に縛られる事無く利用者様お一人おひとりのペースに合わせ、お好きなように過ごして頂いている。希望に沿う事が出来ない時には、話し合い納得して頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみでおしゃれを楽しんで頂いている。マニキュアを希望された方に塗ったり、季節に合った衣類を着れるよう職員の方でお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材が味わえるよう献立を工夫したり、ご利用者様に食べたい物をお聞きし、献立を考えている。又、盛り付け・配膳等その方に応じた家事と一緒に参加して頂いている。	月に1度、希望献立の日を設け、ご利用者の希望を聞く機会を作ることで、ご利用者の希望に添えるよう配慮されています。また、食事の準備、後片付けもご利用者と一緒に行われています。事業所の畑で野菜の収穫と一緒に楽しんだり、お寿司屋さんへの個別外食やおはぎ作りなどの機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目が入るように心掛け献立を組んでいる。食事摂取量は個々に記録し、食事をきちんと摂れない場合は捕食をお出しし栄養を摂れるよう配慮している。又、刻みやとろみが必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアの声掛け・援助を行っている。又、週2回義歯を薬品(ポリデント)で消毒する日を設け、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンの把握に努めており、個別に応じて失禁軽減の為の定時のトイレ誘導や見守りを行っている。	基本的に入居して2週間は排泄パターンを把握する為に排泄チェックを行い、必要に応じてトイレ誘導や見守りも行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を取り入れたり、おやつに寒天を使用している。また体操や歩行等体を動かす場面を設けている。それでも便秘が続く方には、医師と相談し下剤を処方して頂き服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はその日のご利用者様の体調やタイミングに配慮しお誘いしている。又、必要に応じて職員2人対応で介助を行っており、個々に沿った支援を行っている。	基本的には週に2~3回の入浴を基本としており、入浴時は職員との会話を多く持つことを意識し、ゆず湯なども季節に合わせて行い入浴を楽しんでいただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの状態に応じて臥床時間を設けている。精神的に落ち着いて休めるよう居室の温度・湿度・音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際、内容を確認し変更や追加があれば都度職員間で把握してから服薬の支援をしている。服薬後の変化を見逃さず、医師や調剤薬局と連携をとり対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人が能力を発揮して頂ける場を検討している。又、買い物やレクリエーションなどで気分転換して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある時はできるだけ職員と出掛けられるようにしている。又、日々も買い物に同行して頂いたり、外出・外食の機会を設けている。	ご利用者と一緒に日々の買い物に出かけたり、季節に合わせてお花見や紅葉見学、ぶどう狩りやいちご狩り、神社への初詣などにも出掛け、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いはその方の能力に応じて本人管理したり、事務所の金庫で管理させて頂いており、希望に応じてお好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は、職員がお繋ぎし、お話して頂いている。又、年賀状にはご家族宛てに言葉や名前を書いて頂くか、職員が代行して書き、お送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の飾り付けを行い、季節を感じて頂き、目でも楽しんで頂けるよう工夫している。	リビングは季節を感じられる様にご利用者の作品を飾ったり、畳コーナーにはテーブルやソファが置かれ、新聞を読んだり、自由に過ごして頂くようにしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等で気の合う利用者様同士で過ごして頂いている。しかし、利用者様同士でトラブルに至る事があるため、両者の過ごされる場所・距離を置くなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具などを持って来て頂くようお願いしており、心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	使い慣れたタンスやソファ、テーブルなどの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間はすべてバリアフリーで手すりも付いている為、お一人でもホーム内を歩き来できるようになっている。又、居室には表札がついており、トイレにも張り紙をし、分かりやすく・使いやすいよう工夫している。		